

# 平成30年度の目玉研究等 農林総合研究所

## ◆「<sup>みつなえ</sup>密苗」による移植栽培の省力・低コスト化技術の確立

### 【背景】

- ・近年、担い手不足により経営体当たりの水稲作付面積が拡大しています。
- ・水稲移植栽培の省力・低コスト化には、育苗作業の軽労化や育苗箱数の削減が課題です。
- ・慣行よりも播種量を極端に多くした「密苗」(稚苗育苗)の取り組みが暖地を中心に普及しています。
- ・「密苗」栽培では、育苗期間の短縮や使用育苗箱数の削減が可能になります。

### 【目的】

- ・青森県の気象条件に対応した「密苗」による水稲移植栽培の作業体系を確立します。

### 【H30目標】

- ・「密苗」と疎植栽培を組み合わせた圃場試験を行い、省力性や収量、品質を評価します。

### 【今後】

- ・「密苗」栽培のメリットとリスクを明確にして、その技術的課題を解決することで、省力化と安定生産の両立を目指します。



	密苗	慣行	備考
播種量	250～300 g	100 g	乾粳/箱
育苗期間	20日程度	35日程度	
10aあたり使用箱数	10枚程度	30枚程度	坪70株設定

お問い合わせ 農林総合研究所 作物部 TEL 0172-52-4396